

第2回学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原西高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月30日(水) 10:40~11:40
- 3 開催場所 各務原西高等学校会議室
- 4 参加者

会長	長谷川哲也	岐阜大学教育学部准教授
委員	石垣 時広	児童館館長
	古田 宏司	十六銀行各務原支店支店長
	波多野達也	各務原市役所商工振興課課長
	佐溝 安子	行政書士
	黒田 晴代	卒業生
	横前三香子	PTA副会長
学校側	杉江 祐子	校長
	川瀬 隆	教頭
	棚橋由美子	事務長
	淵上 隼一	生徒指導部長
	安藤 桂子	進路指導部長
	林 えり	特別活動部長
	山本 通広	探究部長
	山本 晃久	教務副部長

5 協議事項

(1) 令和6年度岐阜県立各務原西高等学校 アンケート結果について

ア 教務部

- ・昨年度まで：抽出調査→今年度：全員対象調査
- ・昨年度と質問内容が異なり、経年比較ができない点があることをご留意されたい。

イ 生徒指導部

- ・保護者評価で「分からない」という回答が多いが、①生徒指導の件数そのものが他校と比べて少なく、②個人情報のために指導状況は周知されないという観点から、悪い内容だけではない。

ウ 進路指導部

- ・進路講演会を、大学の先生や講演そのものに精通した方に依頼し、内容をブラッシュアップした。
- ・9月実施の3年次保護者向け説明会の時期を早めることが来年度の課題である。

エ 特別活動部

- ・昨年度の行事や部活動の在り方が、コロナに対応した上でコロナによる規制もほぼ解除され、コロナ以前の活動・内容等に戻せた部分も多くあったため、生徒が学校行事や部活動を通じた学校生活に充実感を得られたと解釈できると思われる。コロナ後の学校行事・部活動の在り方について、良いスタートを切れたのではないかと思う。

(2) 各委員より

ア 意見1

- ・保護者のCD（否定的）が多い「情報発信(No. 2,3)」の強化を期待する。
- ・ハラスメント(No. 6)について「7.1%」の生徒があると感じている。信頼関係の構築を。
- ・部活動や文章の書き方指導などは外部に委託して、教員のライフワークバランスを保ってほしい。

イ 意見2

- ・いじめや差別(No. 12)について、生徒のCD（否定的）が気になる。
- ・他項目と比べての多寡ではなく、各項目について独立に考えてほしい。

Q 今が繁忙期というのは西高特有なのか→A：全国的な傾向。

ウ 意見3

- ・生徒の方が保護者より学校を知っているので、生徒アンケートを重視すべきである。
- ・ハラスメント(No. 6)について「6.0%」の生徒が分からないと感じている。明らかにしてほしい。
- ・外部との連携(保護者 No. 11；生徒 No. 9)・・・市役所の活用をしてほしい。
地元企業については商工振興課を使ってほしい。各務野高校ビジネスコースが好例。

エ 意見4

Q 卒業生が来校し、学部の話や就職の話の「生の声」を届ける場はあるのか。

→A：本校出身の教員（3年目・6年目）を呼んで、話をしてもらおう機会がある。

教育実習中、希望生徒を集めて語る会を実施。

昨年度は岐阜大学大学院の学生を読んでパネルディスカッションを行った。

→ D委員：教育関係者だけでなく、企業に就いた卒業生を呼んでほしい。

オ 意見5

- ・3年次生の保護者向け説明会は夏の三者懇談より前の5月にあった方がよい。
- ・セミナーの内容「進路決定における保護者の役割」は非常によい。

Q 志望理由書や小論文指導は個別なのか。

→A：小論文指導を集団でやるのは困難。面接指導は集団でやることもある。

小論文や面接は職員で割り振るが、内容から特定の教科の教員に偏る傾向がある。

カ 意見6

- ・保護者の「分からない」が多いのは、学校に来る機会そのものが少ないからだと考える。
- ・テクノプラザの企業見学会等をPTAで企画できたらと考えている。
今後も、学校と相談しながらPTA運営をしていく。

キ 意見7

- ・生徒の評価が高く安心。懇談の待ち時間にアンケートに回答できたので、よいアイデアである。
- ・Classiになってから、進路だよりや年次通信を見るようになった。
「分からない」が多かった項目については、アプリ等を活用して発信するとよい。
- ・「頼りたいときに教科の教員が誰もいない」状況がないように、教科内で連携してほしい。
外部との連携も視野に入れて対応してほしい。

ク 意見8

- ・ハラスメントがあるという生徒が約30人もいる。この30人にどうサポートをするか。
- ・AとDが注目項目。Aが低いところ、Dが高いところに着目しながら、活動方針を考えてほしい。
- ・総合型選抜が増えている現状、求められる能力が変わってきている。大学としても1年次からの丁寧な指導を求める。論理的思考力・表現力を養うような日々の教育活動をしてほしい。

(3) スクールミッションについて

- ・スクールミッションは「実現したい学校像」。
- ・本校の校風・ブランド・伝統 + 流行「第4次振興計画」の内容 で案を作成した。
＝「規律ある進学型単位制高校」・「きめ細やかな指導」+「探究的な学びの充実」

→委員からは、了承を得た。

6 会議のまとめ

- ・今後の学校運営について、各委員より貴重なご意見を頂戴した。